

千葉県館山市神余における「農」の成り立ち

——農業日誌の分析をもとに——

The factor to continue subsistence farming:

A case study of a farmer's diary in

Kanamari, Tateyama city, Chiba prefecture

玉井 里奈

はじめに

筆者は、耕作者たちが「米を作っても儲からない」「作るより買う方が安い」といいつつもそれを継続する事由を明らかにすることを目的に、平成 26 (2014) 年から平成 29 (2017) 年現在まで千葉県館山市^{かなまり}神余地域において調査を行ってきた。この地域の 1 戸あたりの耕地面積は 2 ～ 3 反 (約 20 ～ 30a) と小規模で、稲作での収益は限られたものである。

本稿では、稲作にかかわらず神余の家が行う農作物の生産活動全体を視野に入れ、それがどのような仕組みのもとで営まれているかを「農」の観点から明らかにする。そして、「農」はそれを行う個人や家のなかで完結するものではなく、周囲の人々との関わりに影響されながら営まれていることを示したい。

第 1 章 問題意識と研究方法

第 1 節 「農業」と「農」

現在の生業研究では、経済的な労働だけではなく従来は非合理的・非経済

的とみなされてきた生業にも意義をみだし、総合的に人の営みを捉えることが試みられている。

松井健は、消滅しても大きな経済的影響を及ぼさないにもかかわらず当事者たちの意外なほどの情熱によって継承されてきた生業活動を「マイナー・サブシステム」と定義している。その遂行には長年の経験や知識、技法の習熟が必須であるとし、成果をあげるために創意工夫を凝らすことが当事者には楽しみや喜びといった情緒的な価値をもたらすと指摘している〔松井 1998：139,145〕。また、生業を「主要な生業（中心のおよび副次的生業を合わせたもの）」と「副次的生業」に区分し、マイナー・サブシステムは、経済的には副次的生業としての性格をもつ場合と、副次的生業のなかでも「より小さな経済的意味しかないもの」となる場合があるとしている¹⁾〔松井 1998：140-141〕。

安室知は、本業とされる仕事の「合間」に行われる「小さな生業」²⁾は遊びや楽しみと関わるものであるとし、それを「遊び仕事」として評価している〔安室 2012：444-445〕。また直接的に稼ぎに結びつく労働を「主労働」、それ以外を「周縁的労働」とし、後者に含まれる生業・生活全般に関わる雑事や「遊び仕事」は非体系的であるが生活を下支えする基礎的労働・触媒的労働であると述べている〔安室 2012：449-450〕。

経済性の高い生業という点で安室の「主労働」は松井の「中心的生業」と対応しているといえよう。またマイナー・サブシステムと遊び仕事の概念も対応するものである。

さらに安室は、「農」とは「経済活動としての農業だけを意味せず、土を媒介とした人と自然との多様な関わりを示すもの」〔安室 2008：127〕とし、前栽畑や市民農園が女性や老人たちの裁量のもと、食料の供給という公的責任や経済的な意味を果たす場であると同時に、彼らが個性を発揮できる私的で趣味的な活動の場にもなっていることを指摘している〔安室 2008：130〕。

第2節 問題の所在

ある家の生業がいかなる性格をもっているかは事例により異なるが、松井

や安室が検討した事例はいずれも農耕が主、狩猟や漁労が副次的・周縁的なものである。これに対して、本稿では主な生業として農業だけでなく賃労働も対象とする。また、生計維持のための「農業」に対して収益性に重きを置かない農作物の生産を「農」と定義する。

今回取りあげる A 家の主な生計維持手段は会社勤めや自営の塗装業であり、A 家で行われているのは「農業」ではなく「農」である。換金を目的とせずに行われる農作物の生産は、先行研究に照らせば経済性を重視しないマイナー・サブシステムとみなすことができる。しかし A 家は 100 年以上当該地域で暮らしてきた家であり、当家の「農」は家産である農地をもとに行われている。

従来の生業研究では、その家で受け継いできた家産やその地域で長年暮らしてきた人々とのつきあいが生業の遂行にいかに関与しているか、という視点からの検討はほとんどされてこなかった。ゆえに本稿では自給的農家である A 家を取りあげ、栽培作物、作業暦、担い手、作物の授受等の実態を明らかにしたうえで、「農」が家と周囲の人々との関わりによって支えられ、時に制約されながら営まれていることを示したい。

第3節 研究方法

本研究では、A 家の住人への聞き取りのほか、より詳細な作業内容・従事者の情報を確認するために農業日誌の分析を行った。

本稿で分析する農業日誌は、現在 A 家で農作業を中心的に担っている K さん（女性、昭和 22（1947）年生）が季節ごとの作業内容を把握するために記述したもので、平成 26（2014）年 1 月 7 日から平成 27（2015）年 12 月 31 日にかけて行った農作業の内容が記されている。K さんは、母である U さん（女性、大正 4（1915）年生）を手伝うことで以前から田植えや稲刈り、草刈り等に携わっていたが、U さんが高齢になり農作業を続けることが難しくなったために平成 26（2014）年 1 月から K さんが農作業を引き継ぎ、日誌の執筆もこの時期から始めた。

なお、本稿では A 家で行われているものは「農」としているが、日誌につ

いては便宜上「農業日誌」とする。

第4節 調査地の概要

神余は千葉県館山市の南端に位置し、四方を低い山に囲まれた盆地で中央部に谷津状の低地が広がる地域である。自治組織として、上^{かみ}、大倉、山下、畑^{はた}ヶ中^{けなか}、上^{うへ}の台、加藤、平田、久所^{くじよ}の8区がある。

平成29(2017)年の人口総数は622人、世帯総数は283世帯で、年齢別にみると約半数が65歳以上である[千葉県2017]。また平成22(2010)年の国勢調査によれば、農林業従事者が全体の22%、建設・製造業従事者が17%、サービス業従事者が60%を占めている。[人口統計ラボ2017]

平成22(2010)年時点での神余の販売農家数は48戸で、そのうち第2種兼業農家が5割を占めており専業農家は3割程度である。一方で自給的農家も多数存在し53戸にのぼる。地域で主に行われているのは稲作と畑作で、ほぼ全ての農家が稲作を、8割近くが畑作を行っている。その経営耕地面積は水田が約20ha、畑が約8haで、水田では反あたり7～8俵(60kg/俵)の収量を得ている。昭和40年代に一部の地域で水田の暗渠排水化が行われたが地域全体を対象とした農地の区画整理は行われておらず、山間に開かれた不定形な農地で耕作が行われている。農地への通いにくさや、ここ数年で急増したイノシシによる獣害を理由に、人家から遠い山間の農地から耕作放棄が進んでいる。

第2章 A家の農業日誌から

第1節 対象とする農家

A家の家族構成は図1の通りである。現在神余に居住しているのはKさん、Uさん、Yさん夫妻、Yさんの長女夫婦と子ども、Yさんの三女である。Kさんの夫は次男で館山市内から婿入りし、Yさんの妻のSさんは東京から嫁入りして以来、神余で生活している。

現在のA家は自給的農家であり、主な生計維持活動はYさん(男性、昭和

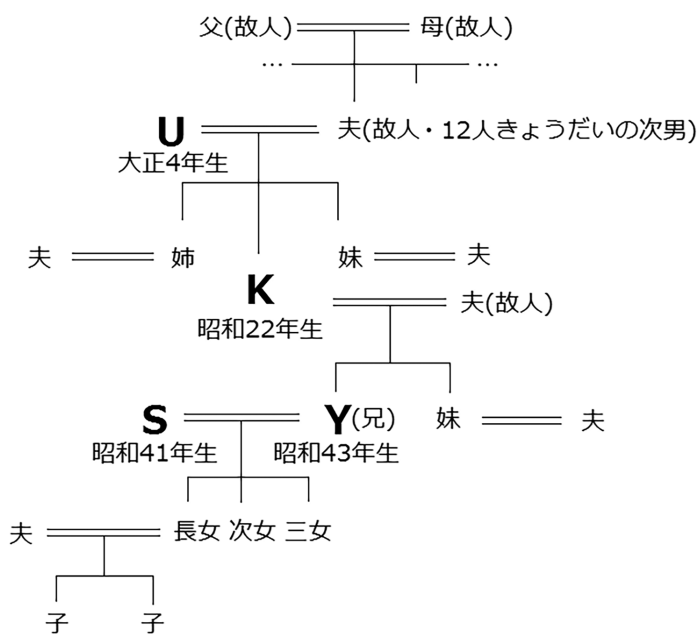


図1 A家の家族構成

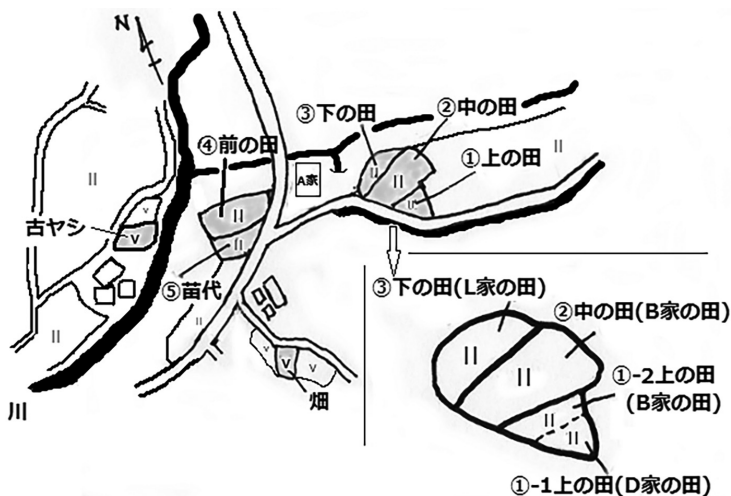


図2 A家の農地

43（1968）年生まれ）による自営の塗装業と、Sさん（女性、昭和41（1966）年生まれ）の会社勤務である。この塗装店はKさんの夫が結婚時に実家の塗装店から独立し、神余のKさんの実家で始めたものである。それ以前は、Uさんの夫は地元のバス運転手として勤務し、Uさんの夫の父は薪炭などの荷運びをする馬車屋として働いていた。直近の3代をみるとA家は専業農家ではなく、別に生計維持手段をもちながら耕作を行ってきたことが確認できる。

A家はかつて畑ヶ中區で生活していたが、100年ほど前に現在住む加藤區へ転居した。神余では基本的に屋敷の場所によって所属する区が決まるが、転居した場合はその後ももとの区に所属する慣例であるため、A家は現在も畑ヶ中區に属し人足、祭礼の手伝いなどは畑ヶ中區の一員として参加している。また庚申講、三夜講も平成27（2015）年に終了するまでは畑ヶ中區の家とともに行っていた。

第2節 A家に関わる農地

（1）田

平成26（2014）年、平成27（2015）年当時A家が耕作していた田は①～⑤の5枚で、耕作面積は合計約15aである（表1、図2参照）。A家では、それぞれの田を「上の田」、「中の田」、「下の田」、「前の田」、「苗代」あるいは「××（もとの所有者の屋号）の田」と呼んでいる。

（2）畑

平成26（2014）年、平成27（2015）年当時耕作していた畑は、自宅近くにありA家が所有する約6aの畑である。特別な呼称はなく、「ハタケ」と呼ばれている。

また、畑ヶ中區のかつて屋敷があった場所は「古ヤシ^{フル}」³⁾と呼ばれ、Uさんが農作業をしていた平成14（2002）年頃までは水田として使われていた。平成26（2014）年以降は他家に貸し、畑として利用されている（表1、図2参照）。

表1 A家の関わる農地一覧

耕作地	名称	貸借	来歴
田	①上の田		B家とD家がそれぞれ所有する2枚の田だった。現在は田の境界にあったU字溝を撤去して1枚の田に変え、A家が耕作している。
	①-1「上の田（D家の田）」	○	平成25（2013）年に畑ヶ中区のD家との間でそれぞれ自宅に近い田と交換し、A家の所有となった。
	①-2「上の田（B家の田）」	○	上区に住むB家の田をA家が借りている。B家がこの水田を耕作することが難しくなったため、A家が引き受けたものである。平成26（2014）年に「D家の田」との境界にあったU字溝を撤去したが、田を返すことになった時のために境界を示すくいを打った。
	②「中の田（B家の田）」	○	B家から借りている。①-2、②に関しては、借地料（¥10,000/年）を支払っている。
	③「下の田（L家の田）」	○	L家の田だったが、L家が耕作をしなくなったことから現在はA家が借りている。
	④「前の田」	×	A家の自宅正面にあるためこの呼称がついた。
	⑤「苗代」	×	もとは苗代だったためこの呼称がついた。
畑	「ハタケ」	×	
	「古ヤシ」	○	かつてA家の屋敷があった場所。平成14（2002）年頃までは水田として使われていたが、平成26（2014）年以降は他家に貸し、畑として利用されている。

第3章 A家の「農」

第1節 作業暦

表2～7はA家の作業暦で、作業内容別に担当者と日数を示した。同じ日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数え、「作業日数」や合計の値は延べ日数となっているため、以下に記す実働日数とは一致しない。

A家の稲作は3月下旬の耕起作業から始まるが、A家の者が本格的に作業を開始するのは4月に入ってからである(表2、3参照)。耕起作業と畦の整形、1回目の代かきを他家に委託し、業者から苗を購入しているために育苗作業を行う必要がないことがその理由である。

外部委託作業は3月下旬から4月中旬に集中し、その日数は平成26(2014)年が7日、翌年が4日である。これ以降はA家の者が作業を担い、草刈りと片づけが9月上旬に終了するまでの実働日数は平成26(2014)年が40日、翌年が48日となっている。

畑作では春野菜から冬野菜まで栽培して加工や保存作業をしているが、1月と2月は草とりや片づけ作業しか行っておらず最も作業の少ない時期である(表4、5参照)。畑作の年間実働日数は平成26(2014)年が81日、翌年が88日である。

平成26(2014)年と、Kさんが主な担い手になって2年目である平成27(2015)年の記述内容を比較すると、後者のほうがより詳細に畑作の作業内容が記載されていることがわかる。また、播種や植えつけ、施肥、片づけをした日は記述されているが収穫日の記載をしない傾向がみられる。聞き取りによると、作物が食べ頃になるとその日の献立にあわせ必要なものを「ハタケにとりに行く」(収穫してくる)という。この日誌は作業内容の備忘録的に書かれたものであるが、A家では出荷を前提とした畑作とは異なり熟し方を考慮しながら収穫する必要がなく、加えて上記のような収穫の仕方であるために収穫時期の記述に重きが置かれていないのだと考えられる。

稲作や畑作が作物の生育に応じた時期に行われる一方で、草刈りや畑の草

表2 平成26年 A家の稲作暦

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	作業日数 ※1
田うない(耕起)				○さん									3
クロスリ(畦塗り)				○家、P社									2
アラシロ(荒代) ※2				○家									2
ホンジロ(本代) ※2				◇									1
ミズハラライ(水路掃除) ※3				4月1日									1
U字溝(田)の掃除 ※4													1
ミズマワシ													3
田植え					× 5月1日、A家								1
除草利まく													3
肥料やり													1
ミズサオリ ※5													1
ミノテキル ※5													1
ハサ準備/片づけ								×	◇				3
稲刈り/かける ※6									K、Y、S、Y三女				3
イネコワシ ※7								×					1
草刈り											○		14
火燃し													8
B家の田のU字溝													3
※1 同日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数えるため「作業日数」や合計の値は延べ日数である。また、「作業日数」の欄掛け部分は外部委託した作業である。計													52

※2 アラシロは1回目の代かき、ホンジロは2回目の代かきである。

※3 隣接する田の耕作者4人ともに行う。この仕事には各家から一人ずつ参加する。

※4 共用の水路とA家が耕作する田を結ぶU字溝の掃除。

※5 落水のこと。

※6 稲刈りはバインダーで行い、刈り取った稲はハサ掛けをして乾燥させる。

※7 ハーベスターによる脱穀作業。

凡例			
担当者不明	×	Kさん、Yさん	*
Kさん		Kさん、Uさん	*
Yさん		Kさん、Sさん	○
Sさん		Kさん、Sさん、Uさん	**
Uさん		外部委託	

表3 平成27年 A家の稲作暦

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	作業日数 ※1
片づけ													3
土運び													1
田うない(耕起)													1
クロヌリ(畦塗り)													3
アラスロ(床代) ※2													1
ホンジロ(本代) ※2													1
ミズハラライ(水路掃除) ※3													1
U字溝(田)の掃除 ※4													1
ミズマワシ													1
田植え													1
除草利まき													4
農薬空中散布													1
肥料やり													1
ミズサオリ ※5													1
ミノテギル ※5													2
ハサ準備/片づけ													3
稲刈り/かける ※6													4
イネコワシ ※7													1
草刈り													19
火入れ													3

※1 同日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数えるため「作業日数」や合計の値は延べ日数である。また、「作業日数」の網掛け部分は外部委託した作業である。計 53

※2 アラスロは1回目の代かき、ホンジロは2回目の代かきである。

※3 隣接する田の耕作者4人とともに行う。この仕事には各家から一人ずつ参加する。

※4 共用の水路とA家が耕作する田を結ぶU字溝の掃除。

※5 落水のこと。

※6 稲刈りはバインダーで行い、刈り取った稲はハサ掛けをして乾燥させる。

※7 ハーベスターによる脱穀作業。

凡例			
担当者不明	×	Kさん、Yさん	*
Kさん		Kさん、Uさん	*
Yさん		Kさん、Sさん	○
Sさん		Kさん、Sさん、Uさん	**
Uさん		外部委託	

表4 平成26年 A家の畑作暦






作物名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	作業日数 ※1
さといも				■									
じゃがいも				■									
きつまいも				■									
ねぎ				■									
カボチャ				■									
ナス				■									
カナリアナス				■									
うり				■									
しょうが				■									
いんげん				■									
シシトウ				■									
キュウリ				■									
白菜				■									
大根				■									
ブロッコリー				■									
キャベツ				■									
ワケギ				■									
ほうれん草				■									
そら豆				■									
玉ねぎ				■									
しそ				■									
ずき				■									
梅				■									
※1 同日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数えるため「作業日数」や合計の値は延べ日数である。				■									
計													114

凡例			
担当者不明	×	Kさん、Yさん	*
Kさん	■	Kさん、Uさん	*■
Yさん	◊	Kさん、Sさん	○
Sさん	△	Kさん、Sさん、Uさん	**
Uさん	□	外部委託	■

表5 平成27年 A家の畑作暦

作物名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	作業日数 ※1
さといも						☐				☐			7
じゃがいも				掘り出す, 植えつけ	草とり	肥料やり	くるむ(土寄せ), 肥料やり, 草とり	片づけ			掘り出す(鑑学用)		7
きつまいも					*	☐							6
ねぎ				飲上げ, 植えつけ	草とり				掘り出す				8
カボチャ				収穫あとと草とり	飲上げ, 草とり	植えつけ, 肥料やり	肥料やり		くるむ, 肥料やり, 防虫		草とり		11
ナス				植えつけ, 肥料やり	薬を敷く, 肥料やり, 防虫					草とり, 片づけ			5
しょうが				植えつけ	肥料やり, 防虫								3
いんげん				植えつけ, 肥料やり, くるむ	草とり	肥料やり			とる(収穫), 漬ける				7
シシトウ				植えつけ	肥料やり	肥料やり, 防虫	片づけ, 草とり		片づけ				4
オクラ				植えつけ	肥料やり, 防虫								2
モロヘイヤ					植えつけ, 肥料やり, 防虫								1
キュウリ					植えつけ, 肥料やり, 防虫								1
トマト				植えつけ	肥料やり	肥料やり, 防虫	植えつけ						4
白菜				植えつけ		片づけ, 草とり							2
大根				収穫あとと草とり				植えつけ	防虫, 肥料やり, くるむ, 間引き	漬ける			8
ブロッコリー				収穫あとと草とり					種まき	防虫, 肥料やり, くるむ	漬ける		8
キャベツ								植えつけ, 防虫	肥料やり, くるむ, 防虫				4
ワケギ								植えつけ, 防虫	肥料やり, くるむ				4
ほうれん草									植えつけ				1
そら豆				片づけ					石灰まき, 種まき				4
玉ねぎ					* もぐ 乾燥機, タネを干す	そら豆あとうなう, 草とり			種まき, 肥料やり	植えつけ	くるむ		14
スナプえんどう				草とり	肥料やり, くるむ, ササを切る	草とり				* 畑うない, 植えつけ, 肥料やり			8
しそ								肥料やり, 防虫					1
梅					種まき	植えかえ	とる	梅と漬ける	草とり, 片づけ				5
餅干できる													4
餅干できない													8
餅干できない									**				16
餅干できない													2
計													148

※1 同日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数えるため「作業日数」や合計の値は延べ日数である。

凡例			
担当者不明	×	Kさん、Yさん	*
Kさん		Kさん、Uさん	*
Yさん		Kさん、Sさん	○
Sさん		Kさん、Sさん、Uさん	**
Uさん		外部委託	

とり、草を燃やす「火燃し」は年間を通じて行われる。特に田や道の草刈りは、怠れば農地が荒れてしまうという理由だけでなく、地域の他の住民との関係も考慮すべきであろう。なぜなら、草刈りをしているか否かがその家を評価するひとつの指標となっているという話者もいるなど⁴⁾、屋敷や自らが管理する農地の周辺をきれいに保つということが、そこで暮らすうえでも必要な行いだからである。

また、稲作、畑作のどちらにも分類できない「その他の作業」(表6、7)に費やした日数は平成26(2014)年が53日、翌年が66日となっており、稲作・畑作・その他の作業の年間作業日数の合計は平成26(2014)年が160日、翌年が169日であった。

第2節 作業の担い手の違い

表2～7をみると、Uさんも依然として農作業に携わり、Sさんも仕事が休みの日には積極的に草刈りなどを行っているが、主な担い手はKさんであることがわかる。Yさんはホンジロや稲刈りといった機械を使う作業やイネコワシの際にハサの片づけ等を担うが、畑作には携わっていない。ここから、A家の農作業、特に畑作は女性によって担われていることが確認できる。そのなかでも特にKさんが担う作業が多く、畑作やその他の作業はほぼ全てがKさんの仕事となっている。

さらに作業の担い手として重要な人物が、上の台区に住む専業農家のOさん(男性、昭和24(1949)年生)と、加藤区に住むJ家、久所区のP社である。Oさんは田うないや畦の整形とアラシロを、J家は畦の整形とアラシロを、P社は畦の整形を担っている。畦を整形する「クロギリ」(畦切り)と「クロヌリ」は、平成26(2014)年以前はKさんが手作業で行っていた。Kさん自身はそれを「面白い」と思っていたが、手作業を「大変そうだ」と思ったJ家やOさんが機械でしてくれるようになり、田うないやアラシロとともに手間賃を支払って委託するようになった。

表6 平成26年 A家のその他の作業暦

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	作業日数 ※1
車とり(場所の記載なし)													6
道の草刈り													5
倉庫片づけ													2
家の掃除													1
家の周りの掃除													1
家の周りの草刈り													5
墓掃除													4
人足 ※2													4
道の拡張作業、ワクはずし(道づくり)													4
手伝い ※3													
集会													7
三夜様(三夜講)													2
(記号は当番の家)													
おこしんさま(庚申講)													6
(記号は当番の家)													5
農業者協議会/生文/申講													4
修理													2
支払い													5
計													59

担当者不明	×	Kさん、Yさん	*
Kさん	■	Kさん、Uさん	*
Yさん	◇	Kさん、Sさん	○
Sさん	△	Kさん、Sさん、Uさん	**
Uさん	□	外部委託	

※1 同日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数えるため「作業日数」や合計の値は延べ日数である。
 ※2 畑ヶ中区の人足。道の拡張工事や、祭りに備えた草刈りを行う。
 ※3 総菜店を営むF家の手伝いや、M家の千両栽培の手伝いをしていいる。

表7 平成27年 A家のその他の作業暦

作業内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	作業日数 ※1
草とり(雑草の記載なし)													1
道(和田道)の草刈り						○				○			3
加藤の草刈り													1
庭掃除					草とり								2
家の掃除/片づけ													6
家の周りの草刈り													2
墓掃除													6
人足 ※2													
手伝い ※3				止メ場			祭礼のための道の草刈り						2
集会					F家						M家の千両巻塔		7
三夜練(三夜講)		食事会,H家											3
(記号は当番の家)	23日(不参加)	23日E家	24日A家	21日		23日	21日A家	24日	23日G家	23日E家	23日F家(終)	25日通帳解約	9
おとしんさま(床申請)													5
(記号は当番の家)		8日H家		14日G家			21日K家	27日E家	29日J家(終)				1
おこもり			10日										1
オビシヤ													1
農業関係 事務所/生刈/申請													8
除草刈届く(農協)													1
農業委員選挙申請													8
修理													1
支払い													8
													66

※1 同日に複数の作業を行った場合は作業ごとに1日と数えるため「作業日数」や合計の値は延べ日数である。

※2 畑ヶ中区の人足。祭礼に備えた草刈り等を行う。

※3 総菜店を営むF家の手伝いや、M家の千両巻塔の手伝いをしていいる。

凡例	
担当者不明	×
Kさん	Kさん、Yさん
Yさん	Kさん、Uさん
Sさん	Kさん、Sさん
Uさん	Kさん、Sさん、Uさん
	外部委託

第3節 「くれる」「もらう」

「くれる」とは、神余において「あげる」という意味で使われている言葉である。ここでは A 家が栽培した作物の消費先や A 家への苗の提供元を挙げ、作物の授受の視点から A 家の「農」を考察する。

まず、A 家が「もらう」ものとして種苗がある。O さんや A 家の親戚筋である C 家、畑ヶ中区の G 家などから野菜の苗や種を提供されている。

対して A 家が「くれる」ものが A 家で栽培された作物であり、自宅消費のほか県外へ嫁いだ K さんの姉妹や、神余の隣接地域に住む親戚、S さんが勤める会社の人、U さんの知人、加藤区や畑ヶ中区の住民に配っている。特に K さんの姉妹にはソラマメやジャガイモ、ショウガ、米など、年間を通してさまざまな作物を渡ししている。作物を「くれる」ことは栽培を行う女性たちが関わる人との間で行われているといえ、いつ誰に作物を「くれる」かの判断は彼女たちの意向のもとで行われていると考えられる。

また、稲作の副産物である藁にも貰い手がおり、平成 26 (2014) 年には 5 戸に、翌年は 6 戸に提供した。貰い手はイネコワシの当日あるいは後日に必要な分を取りに来ている。

第4節 農地の貸借

2 章 3 節で述べた通り、A 家は他家の農地を引き受ける傍らで自らの農地を人に貸している。K さんによれば、毎年 4 月のミズハライに昨年までと違う人が「今年から代わりに（稲作を）やることになりました」と参加しても驚くことはないという⁵⁾。こうした反応から農地の貸し借りをすること自体は珍しいことではないということがうかがえ、神余の耕作者たちが可能な限り農地を農地として使い続けようとする姿勢をみて取ることができる。

第4章 「農」を成り立たせるもの

第1節 担い手と役割

(1) 農作業と女性

A家の「農」、特に畑作は女性たちによって担われ継承されてきた。特にUさん、Kさんは専業主婦をしていたため家に滞在する時間が多く、農作業に従事する時間を確保しやすい。また、農作業とは直接関わらないが、講や人足、祭礼の当番⁶⁾に参加するのは女性、特にKさんであり、地域全体に関わる仕事においても女性の存在が重要であるといえる。

(2) 作業の外部委託

A家では、苗を業者から購入し、田うないやアラシロ、畦の整形を他家や業者に委託している。田うないをOさんに委託することは10年以上前から行ってきたが、A家が手作業で行っていた畦の整備まで任せるようになったのはここ数年のことである。

一般的に、作業の外部委託をする理由として労力の軽減があり、その背景には自家でその作業を行うことに限界が生じたということがあ⁷⁾る。A家が一部の作業を外部に任せていることについてもその一面があることは確かである。しかし畦の整備を委託するようになった経緯をみると、A家からの依頼ではなく近隣の人々からの働きかけによって担われるようになったことがわかる。そうした働きかけをA家も受け入れ、これまで自家で行っていた作業を委託するという仕組みができていったようである。

第2節 「農」の必要性

(1) 農地の維持

神余では、土地の所有者が高齢になるなどの理由で耕作できなくなった際、別の人々に農地を貸す、譲るなどして農地としての利用を続けてもらうということがなされている。屋敷から遠い農地は耕作をやめ、あるいは他家に

耕作を委ねて、自分の屋敷に近く通いやすい農地を自ら耕作することで、省力化しつつも農地管理を継続するという傾向が神余ではみられる⁸⁾。

(2) 貰い手の存在

A 家が栽培した作物は、自家消費のほか親戚やつきあいのある人へ贈られている。市場や直売所への出荷はしていないため、売れ行きや価格、流行を考慮した品種選びや栽培方法をとる必要はない。しかし、貰い手の反応が A 家の「農」のあり方に全く影響を与えていないというわけではない。

A 家では収穫した稲を天日干ししているということは先に述べたが、干す作業が負担になることを理由に、いったんは機械での乾燥に切り替えるということを決めた。しかし、「やはり自然乾燥させたおいしい米が食べたい」という親戚の言葉から、翌日にはその決定が覆り、従来通り天日干しを続けるということになった。また、バインダーによる収穫と自然乾燥によって、食味の良さを求める人だけでなく花卉栽培のために藁を必要とする人々の需要にも応えることができている。

この、自然乾燥ゆえの味が好評であるということは A 家の人々にとって米作りを続けるモチベーションになっていることも確かではあるが、同時に彼らの生産方法を規定するものにもなっているのである。

第3節 つきあいと「農」

それでは、こうしたやりとりは何を背景として行われているのかを検証したい。

神余でも数少ない専業農家である O さんは、A 家以外の家からも田うないやアラシロ、稲刈りを依頼され、苗も配布するなど、地域の農業に重要な役割を果たしている。その O さんの所有する田と A 家の「苗代」は隣接しており、ミズハライをともに行うなど以前から稲作を通じたつきあいがあった。また、畦の整備をする J 家や、農地の貸借をした L 家は、農地や屋敷が A 家の屋敷と近く、同じ加藤区に住む者同士で地縁的なつきあいがある。さらに苗をくれた G 家や、農地の交換をした D 家とは、ともに畑ヶ中区に属す

る家として、人足や講でのつきあいがある。

作物の授受を行う相手も、親戚や知人、地域の住民など何らかのつきあいがある人々である。特に女性たちは講の集まりや祭礼の手伝いを担うことで地域でのつきあいを支えるとともに、自ら育てた作物を関係のある人々に贈っていることが指摘できる。

このように A 家が築いてきた他家との関係性を基盤に、作業の委託や農地の貸借、作物の授受が行われているのである。

第4節 関係性のなかでの「農」

ここまで、A 家の農業日誌の分析を通し、A 家で営まれる「農」を成立させているものについて考察してきた。

本稿では担い手個人の動機に留まらず、「他者」すなわち家とともに暮らす家族、親族、他家、業者等との関係性が「農」に大きく影響していることを明らかにした。

先行研究において「他者」は、担い手の技術や成果を評価し彼らの情緒面に働きかける存在として [松井 1998: 145]、あるいは農を介しての交流の相手として [安室 2008: 131] 登場している。本稿ではそうした他者が及ぼす影響について、より具体的な事例をもって論じることを試みた。

A 家の「農」は、その家のなかで完結しているものではなく、他家への作業委託や農地の貸借、作物の授受といった他者とのさまざまなやりとりのなかで行われている。経済性という観点からみれば取るに足らないものではあるが、農地を農地として使い続けることや、副産物を必要とする人の需要に応えているものも「農」なのである。

おわりに

本稿では、千葉県館山市神余の A 家を事例として、その「農」の実態を述べたうえで、それが家や周囲の人々との関わりに支えられ、時に制約されながら営まれていることを明らかにした。今後は A 家の平成 26 (2014) 年以

前の農業日誌も分析し、A家の「農」の担い手や周囲とのつきあいがどのように継続、あるいは変化してきたかを明らかにしたい。

また、A家のように他に生計維持手段をもちながら営まれる「農」だけでなく、生計のため「農業」を営む専業農家の実態についても考察していくことも今後の課題としたい。

話者一覧

K.K. 昭和22年生まれ、女性

K.Y. 昭和43年生まれ、男性

O.M. 昭和24年生まれ、男性

M.K. 昭和22年生まれ、男性

日誌に登場する関係者の所属・居住区

記号	B家	C家	D家	E家	F家	G家	A家	H家	I家	J家	K家	L家	M家	N家	Oさん	P社
居住	上区		畑ヶ中区				加藤区				加藤区		山台区	上の台区	久所区	
所属	上区		畑ヶ中区								加藤区		山台区	上の台区	—	

参考文献

大竹伸郎

2015「JAいわて中央による農業の公益的価値の創出へ向けた大規模地域営農のとりくみ」『地理空間』8巻2号 地理空間学会編 地理空間学会。

庄子元

2015「福島県西会津町における耕作放棄の抑制メカニズム」『季刊地理学』66巻4号 東北地理学会編 東北地理学会。

人口統計ラボ

「平成22年度国勢調査結果 千葉県館山市神奈」

<http://toukei-labo.com/2010/danjo.php?tdfk=12&city=12205&id=67>（最終アクセス日 2017年10月8日）

千葉県

「千葉県年齢別・町丁字別人口平成29年度 第3表町丁字別世帯数及び男女別、年齢（3区分）別人口」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/h29/h29-index.html>（最終アクセス日 2017年10月8日）

農林統計協会編

2012「農林水産省 2010 年世界農林業センサス 農業集落カード 千葉県館山市神余」農林統計協会。

松井健

1998『文化学の脱＝構築—琉球弧からの視座』榕樹書林。

安室知

2008「『遊び仕事』としての農—前裁畑と市民農園の類似性—」『農業および園芸』83 巻 1 号 養賢堂。

2012『日本民俗生業論』慶友社。

吉田国光

2015『農地管理と村落社会—社会ネットワーク分析からのアプローチ』世界思想社。

註

- 1) ここでは沖縄先島地方の葉タバコ農家を例に、タバコ栽培を中心的生業、野菜作りを副次的生業、時々行われる素潜り漁をマイナー・サブシステムに分類している [松井 1998 : 140]。
- 2) 安室は、この「小さな生業」が松井のいうマイナー・サブシステムにあたるとしている [安室 2012 : 451]。
- 3) 「ヤシ」とは、屋敷を省略した言葉である。
- 4) 口には出さないが、草刈りや掃除をきちんとする家かどうかを住民たちは気にしているものだという。
- 5) 農地の貸借をする場合、ミズハライには農地の所有者ではなく耕作者が参加する。
- 6) 祭礼時に地域内を巡行する神輿や獅子舞は各区の集会所で休憩をとる。その際に担ぎ手や舞い手に食事を振舞うことが女性たちの役割となっている。
- 7) 地域営農による経営耕地の集積や作業委託における委託農家側のメリットとして、機械費の削減や、農業従事者の高齢化・後継者不足の際に農作業を委託できることが挙げられている [大竹 2015 : 268] [庄子 2015 : 293]。
- 8) 吉田国光は農地貸借の仕組みについて、規模拡大に経済的合理性をみだしにくいなかで、専業農家を中心とした労働力に余力のある農家が同一集落という社会関係を背景に農地を請け負うことで、農地利用が継続されていることを報告している [吉田 2015 : 171]。